

## REPORT:

### 西日本委員会

#### <JPDA西日本勉強会> Reborn Vol.3

#### 「大人の工場見学」再生紙工場で古紙の再生と再生紙を学ぶ

担当理事] 井上 聡/奥田一明/藤田 隆/森 孝幹

[担当委員] 三河内英樹 (委員長) /三原美奈子/秦 智子/片山恵子/高木直也/広山幸江/中野有里子/片岡 瞳/丸廣紙業

開催日時	平成23年11月25日 (金) 15:00~17:30/交流会 18:00~20:00
開催場所	大和板紙株式会社
出席者数	36名 (JPDA会員 36名)

勉強会 Reborn Vol.3は、都市近郊の大阪府柏原市に所在する板紙再生紙工場・大和板紙株式会社を訪ねた。創業は60年前。レトロでコンパクトな工場だが、工場の見学時には丁寧な説明もあり全行程が解り易かった。

再生紙の原料となるのは新聞紙・雑誌・段ボールの他、オフィス古紙・官公庁などの機密文書・焼却されようとしている難処理古紙も積極的に使っている。

この工場に現存・利用している板紙生産技術の半分は、大和板紙株式会社にしか出来ない手法。

他社には真似の出来ないオリジナルな技術を研究し続け、自社開発技術100%に近づけたいという思いがある。

また、工場では、循環型リサイクルをめざしている。

原料の紙は、水だけで溶解し薬品を使わない。

一番大きなパルパーで一回につき800Kgの原料を溶解できるが、12tの水が必要だ。

大量に使った水には不純物が混じるので、安全な薬品で加圧浮上させ、不純物を取り除いた水を再利用する。

さらに、傷んで使えなくなった古い木製パレットは、使える部分を組み直し再利用。

板紙の裁断片は、チップとして再生可能エネルギーにしたり、漉き込んで風合いのある紙に仕上げている商品もある。

水に溶けずに残ったフィルム類は、クリップなどを取り除き固形燃料化しリサイクルしている。

これらも、近い将来にサーマルリサイクルとしてではなく、マテリアルとして再生できるよう取り組みを行っている。

最後に、今回の工場見学にあたりご挨拶いただいた大和板紙株式会社 社長の「この工場働いている社員に幸せを感じて欲しい。その思いが、お客様も伝わる。」との言葉が印象的だった。工場働く社員にもその空気が漂っていた。

※ パルパー (原料離解装置: 水と一緒にあらゆる古紙を攪拌し繊維を解す釜)

